

日本ジャージー登録協会（高村祝次会長）並びに全国ジャージー酪農振興協議会（加藤賢一委員長）は、昨年 11 月にカナダの酪農家並びにローヤル・ウインター・フェアを視察したが、その際に現地のカナダジャージー協会担当者から如何にしてジャージーの存在をアピールすべきかのレクチャーを受けた。また、同協会が一般酪農家と関係者に配布している「ジャージーアドバンテージ」という冊子を翻訳することの承諾を得たので、一部内容を紹介したい。なお、詳しい内容は別途、掲載した。



### 乳脂肪／乳蛋白質の比率と生産に係る経費

多くの酪農家では合計の収入のうち、生乳からの収入は約 85%になります。それ故、生乳の単価が重要となります。カナダでは生乳のクォータ（割当）は、乳脂肪／乳蛋白質の比率に影響されます。酪農家が所有するクォータから収益を最大限にするためには、より高い付加価値の生産をする必要があります。

1 リッターの牛乳を生産するためのコストはそれぞれの酪農家で途方もないほど大きな変動があります。飼養管理や牛群の更新も重要な要素となります。より良い飼養管理をすることが将来の牛群を左右することになります。

### 効率イコール収益性

2016 年に講評されたエコノミック リポートの“カナダの酪農業の未来予測”によると、カナダの酪農業界においては牛群の規模は問題でなく、効率の良さがより多くの収益をもたらすと記しています。さらに、いろいろな牛群規模において、良い管理と近代化、高位生産により、収益が改善される。しかしながら、多くの場合、牛群で使える技術を注意深く習得することにより、収益が改善されることも報告されています。

酪農家は効率を求め、飼料のコストを調整しようとしています。ジャージーは少ない投資と少ない費用で飼料をミルクに変える能力を備えています。ジャージーは他の品種に比べて小さい牛ですが、だからといって、より多くの頭数を必要とするわけではありません。食物化学の研究では、栄養的にリッチなミルクは、たとえ量が少なくとも、今日の消費者が求める生産物を生産してくれます。バターやチーズ、ヨーグルトの消費が増えるにつれ、ジャージーを所有するカナダの酪農家は有利となっています。

### 二酸化炭素排出量（carbon footprint）

我が貴重な地球を保護すること考えると、あなたの栄養学的な管理手法と我々の自然資源を保護することは非常に重要です。ジャーナル・オブ・デーリー・サイエンスの文献では、ジャージーとホルスタインの牛乳からチーズを生産するときの環境的影響を比較しています。これによれば、ホルスタイン牛乳よりジャージー牛乳からチェダーチーズを作ったときの方が、自然資源の消費がより少なく、環境的影響が少ないという報告があります。一方、同じ量の乳蛋白質量や乳脂肪量、乳固形分量を生産すると仮定すれば、ジャージー集団の方が水は 32%少なくて済みます。土地面積は 11%少なく、化石燃料も大いに少なく、糞尿も少ない。この研究では二酸化炭素排出量は 20%も削減できるとしています。

### 早くお金を生み出す

ジャージーは他の品種よりも早く成熟する。このことは、ジャージーがより早い月齢で授精でき、より早い年齢で泌乳を開始することを意味します。カナダでのジャージーの初回授精月齢の平均は15.5月となっており、全品種の平均より丸 1 ヶ月早くなっています。そして、多くのジャージー育成牛は13ヶ月までに初回授精されています。また、ジャージーの生涯についての平均は3.3回分娩し、3.8回の乳期を経験しています。

この初産分娩月齢の数字から考えると、仮にジャージーが22月齢、他の品種が26月齢とすれば、920ドルもの差が出ると試算されます。カナダ国内で頭数の多い乳用3品種の中でも、ジャージーは多額の収益を上げることがわかってきました。

### 繁殖力が良い

ジャージーの1頭当たりの受胎に要する授精回数は、カナダの乳用品種の中で最も少なく、1.8回という報告があります。また、56日ノンリターン率は68%で、他の品種より7%優れているといます。

バージニア州立大学の研究では、純粋ジャージー種は思春期を迎えるのが産業全体平均より8週早いという報告があります。また、ジャージーの発情期間がより長く、スタンディング・ヒート時間も長いと報告されています。これはすなわち、発情発見を見つけやすくするとともに発情の誤認を緩和することにもつながります。

#### 育成牛では・・・



Estrus Periods: 10.7 hours (発情時間)

Standing heat events during estrus: 17 times (発情時の上駕回数)



Estrus Periods: 12.7 hours

Standing heat events during estrus: 27.5 times

#### 分娩後では・・・



Estrus Periods: 7.4 hours

Standing heat events during estrus: 6.9 times



Estrus Periods: 8.9 hours

Standing heat events during estrus: 9.5 times

### 分娩が軽い (easy calving)

ジャージーは産業全体の平均に比べて難産が3分の1も少ないといわれています。外科的な介助も少なくなり、心配事も減ります。さらに母体からスムーズに胎児が排出されます。カナディアン・デーリィ・ネットワーク (CDN) の報告では、ジャージーの初妊牛では96%が容易な分娩、経産牛では99%が容易な分娩とされています。

### 肢蹄 (feet & legs)

全ての乳牛にとって、跛行は生乳生産量を減らすとともに、空胎日数が長くなり、獣医師の処置が増え、成熟前に淘汰されるなど、重大な経済的な損害を引き起こします。アイオワ州立大学のフィールド検証によると、ホルスタインでは90%の牛に蹄に明らかな傷害が見られたが、ジャージーでは19%にすぎなかった。

また、ジャージーの黒色の硬い蹄は、疣状皮膚炎 (PDD) などの蹄の病気の感染が減る傾向にあります。もう一度いいますが、体のサイズの問題です。ジャージーは体格が小さいが故に、蹄の病気に起因する跛行が少ないのです。

確かにジャージー協会の体型審査では、乳房の配点が最も多く48%となっていますが、肢蹄も以前より加点され18%となりました。すなわち、適切な肢蹄と乳房の構造は、長命性と収益性に大きな影響を与えるからです。

ジャージーは放牧地においても強い肢蹄でスムーズに動き回り、良き採食者となります。しかも小さなからだ故、雨でぬかるんだ放牧地をそれほど痛めることはありません。

